

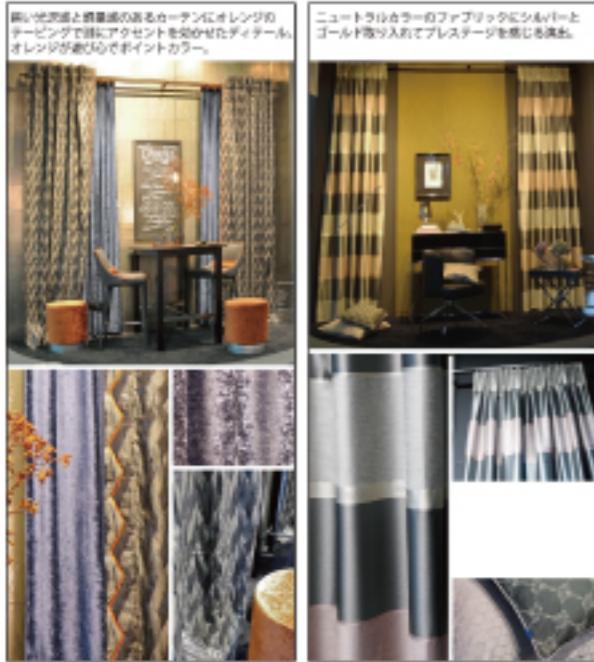
2016 heimtextil DECO TEAM

2016.2.29 Report Miki Kitahara 49

■ デコ・チーム

今年も同コーナーで集められた生地の中からカーテン・壁紙・家具の強化用の素材を自由に選んでコーディネートボードを作るワークショップが実施された。トレンドテーマがそれぞれのカテゴリーで唯一種々をさせて具体的な組み合わせとして参考になり、インテリアコーディネーターやコレーターにとっても注目ゾーンである。

METROPOLITAN STYLE:都心的で柔軟的な雰囲気を基調にスタイルリッシュなコーディネート。



FLORAL STYLE:ゆったりとしたリゾートスタイルをグラマラスなシーンとカジュアルなバカンスシーンで表現。



2016 heimtextil QUALITY TREND

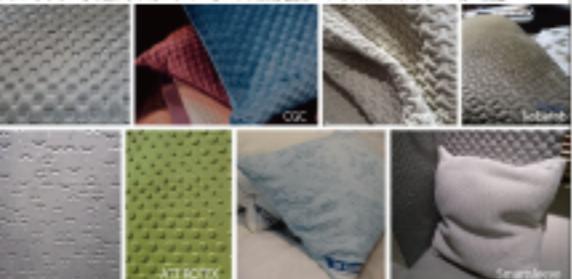
2016.2.29 Report Miki Kitahara 59

■ クオリティー傾向

デジタルテクニックが不可欠になった素材や資材は、これまでテクニックを駆使した表面のオンパレードから、少し落ち着いてきたように思われる。クリーンでアクリカルな素材とクラフトでナチュラルな要素を残した財質、素材が主流を占める。

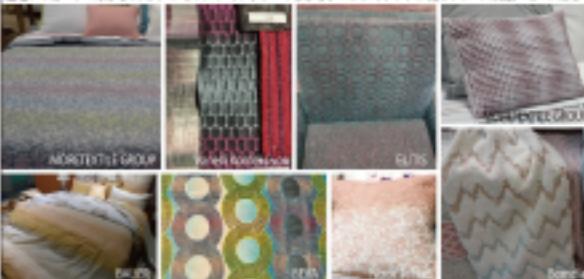
ソフトプロテクション

伸縮性のある素材やウレタン素材との組み合わせで投入めで心地よい凹凸感が特徴。デジタルな造形感でコンテンポラリーな印象に、スポーティなニット素材使用。エンボス/3Dモルト/ハニカム構造



オンプレレイヤー

パックグランドにグラデーションの施され、ジーコード柄や凸凹加工と合わせて進行のある進合いを作っている。起毛ジャガード+ぼかし/3Dエンブロイダリーボカシチェックのフリル編み/レース刺繡+ビーズぼかし



ピュアな自然素材

絹や木綿、植物など天然素材を使った本質が尊重。あえて不均一さや粗野感を残すオーガニックな味わいを生かしている。しわを含むした前/アバカラントの面倒/ジューの厚手/ココナップ材はプリント/コルク



ウォッシュアウト加工

デニムのようなウォッシュアウトでヴィンテージ風の風合いを残す。インディゴカラーの温湯の色合いで織り柄をオマケりしている。今は毛糸、デニム、ニット、バイルなど素材全般に広がる。



2016 heimtextil COLOR TREND

2016.2.29 Report Miki Kitahara 59

■ カラー傾向

ブルー系、ニュートラルの色相は昨年から続続。特にブルー系は強調。カーテン、ベッドリネン、タオルなど各カテゴリーで今年はさらに増加。ピンク系はオレンジへと移行し、コーラル、アーモンドや褐色のオレンジへと色相の幅が広がる。昨年から注目されるダスティーバスルは、ほんやりとしたトーンやミックス感が強わり複数のカラーパレットを構成する。



2016 heimtextil PATTERN TREND

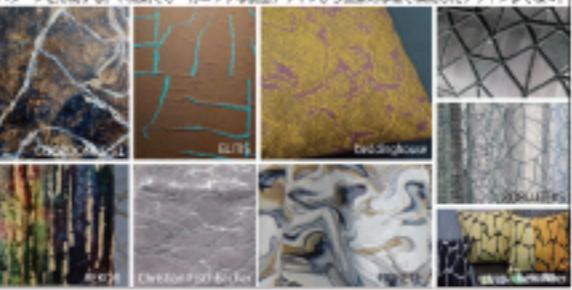
2016.2.29 Report Miki Kitahara 79

■ パターン傾向

今年も自然界からインスピレーションした表面デザインが注目された。複数のパターン要素の組合せで奥行きや質感を感じさせる。昨年よりは組み合わせ要素が整理されモチーフの印象が鮮明になった。

自然の表裏

自然の有機物による変化や組み合がインスピレーションとなり、ひび割れやすりづつ、実はや葉巻したようなパターンを表現する。不規則でオーガニックな表面デザインから抽象的な様で構成したデザインまで様々。



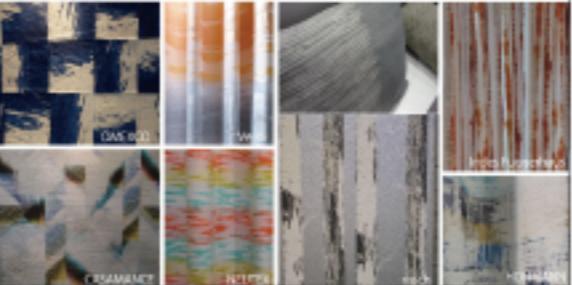
連續多角形

ジオメトリックな幾何学模様が多くみられるようになり、3D的な厚み感、ライン模様や、多面体感。グラデーションなどファブリックならではの素材や手邊に合わせた工夫が見えた。



カスレアレンジ

大胆なハイカラのタッチを出しアソートやジャガード、オフに後加工でダンな印象のパターンを構成する。ブロックやストライプ等の既存パターン/材質に手縫い感や質感をプラス/重なるレイヤーの組み合わせ



ドローリングプラス

水彩画タッチのボタニカルや絵画調のパターンがモチーフを組み合わせる。薄糸糸とナチュラル感を表現。モノトーンの植物圖とフローラルモチーフ/手縫いロゴでアート風

